



声のヒメマス

声

以前、支笏湖の夏の風物詩「ヒメマス釣り」を楽しんでいました。最近行っていないませんが、昨年は「釣果が盛況」と聞き、また楽しみたいと考えています。このヒメマス釣りに遊漁料が必要となったようですが、それはどうしてですか？

答

ヒメマス資源の保護にかかる費用が多いため、愛好者に自分の負担をしてもらい、資源を確保していくことを目的に、昨年から、漁業権にもとづいてヒメマス釣りをする方に遊漁料の負担をしていただいています。

支笏湖のヒメマスは、ふ化放流事業によって100年以上にわたり守られてきた歴史があります。夏にはたくさん釣りが愛好家が訪れ、支笏湖の風物詩となっています。また、ホテルや飲食店などの食材として活用され、貴重な観光資源になっています。

市は、平成8年に地域経済の振興の重要な柱としてヒメマスを「市の魚」に定めました。平成10年には水産庁から支笏湖ヒメマスふ化場施設を譲り受け、ふ化放流事業を続け、支笏湖のヒメマス資源を守ってきました。

市のふ化放流事業は、これまで漁業権などの法的な位置づけを持っていませんでした。漁業権の取得を目的として国に構造改革特区にもとづいた規制の緩和を提案していましたが、自治体として共同

ヒメマス釣りが有料になったのはなぜですか？

《40歳代男性》

漁業権を取得することはできませんでした。

その後、この特区への提案をきっかけに、地元住民による漁業協同組合が設立されました。組合が主体となったさまざまな取組の結果、平成20年に長年の悲願であった漁業権を取得することができました。

遊漁料を納めた方には組合から遊漁承認証をお渡しします。解禁期間は6月から8月ですが、この期間でも遊漁承認証がなければヒメマス釣りはできません。違反したときは、罰則を受けることとなりますので、必ず遊漁承認証をお持ちください。 ※遊漁料や遊漁承認証については、支笏湖漁業協同組合（☎2059）へお問い合わせください。



「ヒメマス釣り」はルールを守って楽しみましょう。

【ワンポイントメモ】

ヒメマスは、アイヌ語でカバルチェッポ（薄い小魚）と呼ばれていました。明治41年道庁職員の森脇技師が「紅の小なるは姫に通ず」と提案し姫鱒（ヒメマス）という和名がつけられました。ヒメマスの別名「チップ」はアイヌ語名のカバルチェッポに由来しています。

観光振興課水産振興係
☎240381

案内

「声のラン」では、おもに「市長への手紙・ポスト」や「広報広聴モニター」の声と、その答えをご紹介します。そのほか皆さんからの一般的な質問などもご紹介しますので、普段から疑問に思っていることなどを、お手紙などでお寄せください。ただし、ほかの市民にも参考になる内容を採用させていただくため、個人的なことなどすべてを掲載することはできません。また、質問の内容を確認する必要上、お手紙には必ず連絡先と名前をご記入ください。【〒066-8636 / 千歳市東雲町2丁目34 / 千歳市企画部広報広聴課 宛】